



泥水交じりで湯が噴き出した柳川温泉の
新源泉掘削工事現場 =大江町柳川

大江・柳川温泉

湧いた希望の湯

震災で源泉
ストトップ 新掘削現場で自噴

東日本大震災の影響で源泉の自噴が止まり、日帰り入浴の営業を停止している大江町の温泉施設「柳川温泉」の新源泉掘削工事現場で25日、湯が自噴した。町

は今後、自噴量や温度、成分を調べる。設定した条件を満たし成功と判断すれば、送湯設備工事を経て12月中旬にも営業を再開できる見通し。

25日午前9時半ごろ、泥水と共に噴き出ているのが確認された。掘削の深さは約800㍎。同日夕方時点で温度は約50度、自噴量は毎分約120㍎。掘削業者の日本地下水開発(山形市)の担当者は「泥水と一緒に出ていることを考えれば、実際の湯温はより高く自噴量も相当多いのではないか」と話した。

硫黄のにおいがあり、震災で止まった源泉と同じ性質の可能性が高いという。渡辺兵吾町長は「ほっとした。被災した温泉が元の姿を取り戻すという、復興の兆しのような出来事だ。掘削成功となった暁には、できるだけ早く営業を再開したい」と語った。

掘削は今年6月にスタート。日本地下水開発との契約は6090万円。約は毎分300㍎以上、湯温50度以上などの条件を満たした場合に全額を支払う成功報酬方式で、契約金額は6090万円。